



Address : Osaka YMCA, 1-5-6 Tosabori Nishiku Osaka 550-0001 Japan
Phone : (06)6441-0893

9
2012

主題 (2012/2013)

国際会長	Be the light of the world 「世を照らす光となろう」	Share your blessings in love 「恵みを愛もて分かち合おう」
アジア会長	Years bring wisdom 「歳月はY'Sをワイズ(賢者)にする」	Action vitalize life with strength 「行動が活力を呼び覚ます」
西日本区理事	Let Y'smen Light Shine before Others In the club, in the community in the world 「先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で」	
中西部長	Let's nurture Y's dynamic spirit! 「ワイズの活力を育てよう」	
大阪クラブ会長	Let's spread the Y's spirit 「広げよう ワイズメンのこころ意気」	

会長	北村 知三
直前会長	牟田 大盛
副会長	清水 汎
	脇本 博
	森嶋 弘明
	豊島 正利
書記	牟田 大盛
会計	尾和 信孝
プリン	松原 伸幸
連絡主事	田尻 忠邦

【今月の聖句】

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きなことにも不忠実である。」
新約聖書 ルカによる福音書 16章 10節

【9月例会プログラム】(メネット強調月間)

とき：2012年9月11日(火) 18:15~20:15

ところ：大阪土佐堀YMCA 9階

司会 北村 信子メネット会長

1. 開会の鐘 北村 知三会長
2. クラブソング
3. ゲスト・メネット紹介
4. 会長報告
5. 「日々の糧」斉唱・晚餐
6. HH国際キャンプ報告会
7. 誕生日・結婚記念日のお祝い・ニコニコ
8. インフォメーション
9. YMCAニュース
10. 閉会の鐘 北村 知三会長

受付：脇本・崔メネット



於：8月例会



HH国際キャンプ(脇本メネット)

【第2例会のご案内】

とき：2012年9月18日(火) 19:00~20:30

ところ：大阪土佐堀YMCA 6階 601号室

(変更になることがありますので、ご注意ください。)



HH国際キャンプでの
條メンと脇本メネット

今月の誕生日：牟大盛（１）尾和信孝（１０）

メネットさんお誕生日：清水佐智子（１０）北村信子（１１）

ご結婚記念日：該当者なし

【聖句に寄せて】

宇野 義男

昔、新しくできたキリスト教関係の施設で、ドアに男女マークが一緒に貼ってある狭いトイレに入った。結婚式までにはかなり時間があったので誰もいないだろうと思ったが、中のドアが閉まっていた。女性が入っていきそうな気配を感じたので、すぐ出ようと思った途端、中から老婆が出てきて「汚いですから気づけんと服が汚れますよ」と注意してくださった。まだ新しい「手洗い場」も、いつ掃除をしたのかうす汚れていたし、会堂のすみにはゴミがたまっていた。結婚式と披露パーティーを受入れたのに、職員らしき人は見当たらない。

私達夫婦は媒酌人として新郎・新婦のリハーサルに立ちあわねばならないのに、打合せの時間が過ぎて牧師が到着。ようやく式が始まり、パーティーは近くのレストランから料理が事務的に運ばれ進められた。・・・

日本におけるキリスト教伝道は活発ではない。これは国民性であるとか言われているが、私はそれだけではないと思う。人々が信じようとしなないのは、私たちの生き方が言葉だけで、具体的な証しとして現われていないからである。

信仰は日常生活のなかで、行いによって生かされていくものである。私たちの身近に、一見小さく見えるもののなかに、大切なものが含まれていることを憶えたいものです。

【８月出席状況】

8月出席状況	在籍	例会出席	アメツイブク	メネット	ゲスト	ビジター	出席率	二献 コ金 ニ コ
正会員	15	8		2	10	4	53.3%	11,613円
功労広義会員	2							
合計	17	8		2	10	4		

8月例会の出席者

メネット：北村信子会長、脇本真知子メネット

ビジター：吉田由美会長、今井利子メン（なかのしまクラブ）

ゲスト：（全員 脇本博メンのご友人方です）

（ギターとマンドリン善旦会の皆様）

吉田耕一・島隆司・西畑史和・志賀正美・神野晋司・稲谷嘉平・岩崎稔・岩崎季子さん

（ご友人）宮野孝雄・宮野洋子さんご夫婦

OB OG：西村智恵（OG）、伊田洋子さん（手話通訳者）

【会長報告（2012年8月納涼例会）】

今年度第1回中西部評議会（7月28日）での協議および行事などの決定事項

中西部EMCフォーラムが7月16日行われました。

中西部は前年度2クラブが廃部し、残りの9クラブで144名に減ったことから、中西部の立て直しが切

実に求められています。クラブの自己診断プログラムを使って現実を見つめなおし、例会などのクラブ運営・人材育成など、クラブ全員が本気で取り組まないと、クラブの存続が危惧される。

中西部行事

- (1) 中西部合同メネット会
9月15日(土)中西部会当日、中西部会の始まる前に、「メネットアワー」として12:30~13:30、ホテルグランヴィア大阪20階「鶴寿」の間にて、行われる。
- (2) 中西部YYフォーラム
9月1日(土)午後1:30~4:30、大阪YMCA会館3階。
「変わる大阪YMCA 新会員制度の仕組みを学ぶ」と言うテーマでパネルディスカッションなど行います。
- (3) 秋の六甲山ソフトワークキャンプ
10月27日(土)・28日(日)27日(土)12時集合し、28日(日)昼食後1時解散。一日だけの参加も可能 リーダーや留学生とともに施設整備(ペンキ塗りなど)しながら、交流を深める。懇親会もあります。
- (4) チャリティーラン
10月8日(月祝)大阪城公園 (阪和部と合同)
HHキャンプOBOGに1チームで走っていただきたい。大阪クラブは、受付などの担当となる予定
- (5) 中西部合同新年会
2013年1月19日(土) KKRホテル大阪 (ホスト:大阪西クラブ)
- (6) 東北大震災復興支援プロジェクト
2013年2月23日(土) いきいきエイジングセンター
各クラブで、出店ブースを設けて、来館者との交流、震災支援への協力を呼びかける。

広報事業から

ワイズメンズクラブ国際協会が、国連(ユネスコ)認定の国際奉仕団体であることを、ご存知でしょうか。魅力ある団体であることに誇りを持ってほしい。

中西部ホームページを充実しますので、よく見てください。

ワイズの魅力を正確に外部に伝えるための”キャッチコピー”を、クラブ単位で募集します。

大阪クラブからのお知らせ

YMCA HHキャンプ香港 7月31日~8月8日

キャンパーを含めてメンバーの條さん、脇本メネット、OBOG2名、通訳2名 全員無事帰国しました。9月例会での報告を楽しみにしております。

アメリカのパサディナへの派遣留学生、清水メンのマゴメットは、大学一年生からのクラブ活動日程と合わず、11月以降の派遣受け入れ可能かどうか調整中です。

大阪土佐堀カーニバル(11月3日)への参加

例年通り焼きそばブースで参加します。またHHキャンプのOBOGによるパフォーマンスを企画。出来るだけ多くのメンバーの参加を希望

西日本区各部会の日程は、スケジュール表で確認してください。

各部会に参加できる人は、牟書記までお申し込みください。

大阪センテニアルクラブ 30周年記念例会

11月17日(土)午後2時~5時 ホテルグランヴィア大阪

大阪クラブ ユースクラブ「HHリーダー会」設立実現に向けて、前向きに 取り組む。
京都プリンスクラブ訪問 「HHキャンプ報告会」など検討中。

- 9月例会 「国際キャンプ報告会」OB OG、條メン、田尻連絡主事
- 10月例会 森本栄三メン（高槻ク） 「マザーテレサに学んだ奉仕の心」
- 11月例会 豊中クラブから転入会された石橋ルキメンによる卓話を中心に。
- 12月例会 茨木クラブとの合同クリスマス祝会

【クラブ役員会報告】報告者：書記 牟 大盛

日時：2012年8月21日(火) 19:00～20:30

場所：大阪土佐堀YMCA 601号室

出席者：北村・脇本・清水汎・尾和・牟・松原

協議事項

1) 9月例会（メネット月間）プログラム

司会 北村メネット

「HH国際キャンプ報告会」

発表者：田尻連絡主事・OB OG 通訳者：條メン・伊田さん

準備物：プロジェクター、PC 他

受付 脇本メネット・崔メネット

食事：@¥1000 弁当（シンエイフード）

* 10月例会（案）：森本栄三メン「マザーテレサに学んだ奉仕の心」

* 11月例会：石橋ルキメンの講演

* 12月クリスマス例会：茨木クラブとの合同例会

2) 8月納涼例会会計不足金充当の件

- 不足金 52千円は、ニコニコ献金会計から充当する。

3) IBCについて：パサデナクラブへの孫メットホームステイの件

訪問期間変更について：9月訪問を清水孫メットのクラブ活動の関係で、11月か12月に訪問時期を変更の予定。パサデナクラブへは、孫メットが直接連絡を取り合うとの報告がありました。

4) EMC推進の件

新規加入対象者については、12月のクリスマス例会での入会の勧誘に皆で努力する。

- 大阪クラブ ユースクラブ「仮称：HHリーダー会」設立の件

：あくまでもYMCAのイベントリーダーとしての独自運営を前提に早期設立を目指す。

5) 他クラブ訪問と各種行事：出席者を早々に確定する。

- 9月1日：YYフォーラム（13:30 - 16:30）大阪Y会館3F

パネルディスカッション「変わる大阪YMCA 新会員制度の仕組みを学ぶ」

- 8月25日：びわこ部部会、- 8月26日：中部部会

- 9月8日、六甲部、9日京都部、15日中西部、22日阪和部、29日西中国部

6) 10月8日：チャリティーランの件

- 例年通り、HHOB OGチーム 1チームを支援（@¥5万）する。

- 大阪クラブは受付の担当。OB OGと昼食を共にする。

7) ブリテン編集について

- 松原ブリテン委員長より、編集方針について説明があり、了承された。

8) その他：中西部行事を中心に会長から説明があった。

- 京都プリンスクラブ訪問：「HHキャンプ報告会」などを通して検討する。
- 東北大震災復興支援プロジェクト：2003年2月23日(土)「いきいきエイジングセンター」で各クラブで販売ブースを設けて、震災支援事業をする。
- 秋の六甲山ソフトワークキャンプ：10月27日(土)、28日(日)一泊でリーダーや留学生とともに施設整備(ペンキ塗り)など労働奉仕をする。
- 九州北部豪雨災害募金の件、と国際憲法改正の件について会長より説明があった。

【8月例会報告】

清水 汎

8月14日(火)恒例の納涼例会が18:30~20:45まで大阪キャッスルホテルで行われました。新会員の五条メンの司会により始まり、北村会長の開会点鐘が行われ、クラブソングが会唱され、ゲスト紹介がありました。ゲストは脇本メンの友人2名と更に演奏会の友人9名、なかのしまクラブの2名、HHキャンプ参加の2名等の参加がありました

HHキャンプが今年は香港であり、田尻メンの司会で参加された脇本メネットとHHキャンプOGの西村さんと手話通訳者の伊田さんから参加報告がありました。150名前後の参加があり盛大に行われたようです。マカオでも行われ、

いろいろと勉強になったようです

善旦会(和歌山大学OB)9名によるギター、マンダリンの演奏があり、熟練された演奏で皆さんの拍手喝采があり、アンコールもされました。脇本メンの友人で些少のお礼で協力して頂きました。

日々の糧を斉唱の後、晚餐、納涼懇親会となり、皆さんで楽しい美味しい食事の一時を過ごしました。

最後に恒例のチャリティオークションが行われ、皆さんかなり高額の商品が提供され、33,000円の売上げが脇本メンのご奮闘のお陰でありました。これ等はHHファンドとして提供されました。

この後誕生日、結婚記念日のお祝い、ニコニコ、YMCAコース、なかのしまクラブから中西部会参加のアピールがあり時間どおりの閉会点鐘となりました。

今回は会員の参加が9名と少なく脇本メンのお陰で24名の参加があり納涼例会が無事に済みました。会員皆さんで盛り上げる何かが必要と思いました。私も協力度が、少なく反省しきりでした。脇本メン、メネットに感謝。

8月納涼例会 収支報告

会計 尾和信孝

差引

	収入	支出
会費	88,000 (注1)	
出演者謝礼		20,000
宴会費(キャッスルホテル)		120,000 (注2)
合計	88,000	140,000

52,000

(赤字分は、ニコニコで負担とします。)

(注1) 14名 @6,000 2名 @2,000 8名(招待)

(注2) 24x@5000(フリードリンク)

オークション売上げ金 33,000円 HH基金へ入金。

【中西部EMCフォーラム参加報告】

石橋 ルキ

7月16日(月・祝)14:00より大阪YMCA会館で「中西部EMCフォーラム」が開催された。大阪クラブからは北村知三会長、牟大盛EMC委員、脇本博部CS事業主査、石橋ルキが出席した。

最初に西日本区EMC事業主任米村謙一氏(熊本むさし)から今日の会議の進め方についてオリエンテーションがあった。C(Conservation)=クラブの健全な運営、の土台の上にM(Membership)=親睦、会員増強が成り立ち、やがて、E(Extension)=子クラブ新設が成り立つ。そこでCMがどこまでできているかを自己診断するための「自己のクラブを自己診断するためのプログラムを考え出された。

A. 定例会のあり方 ~	D. 財政面について ~
B. 企画例会(第2例会)のあり方 ~	E. 人材育成について ~
C. クラブ運営について ~	F. YMCAについて ~

上記の6項目に ~ までの設問があり、その完成度を5点法でチェックするものである。設問は極めて明快で、誰でもがわがクラブを振り返って、すぐに点数をつけられる。

続いて、各クラブ単位に点数票を照らし合わせ、自クラブの長所、短所を話し合う。

最後に各クラブEMC委員から分析結果と、改善策が発表された。大阪クラブは牟EMC委員が報告された。

1)大阪クラブは日本で最初に出来、他クラブは全部、子クラブ、孫クラブである。永遠に存続し続けなければならぬ宿命を持っている。2)E.の人材育成では若い後継者の養成はできていないが、年齢に拘わらずゲストを育成して、会員を増やしている。3)大阪YMCAの重要な国際奉仕プロジェクト「聴覚障害青少年国際キャンプ」を財的、人的に支援しており、クラブのライフワークとしている。

今期の主任はクラブの健全な運営、親睦と交流から自然な会員獲得を述べられている。やたらと人を増やせ、会員の獲得あるのみと、旗をふりまわす事業主任と一線を画す、新鮮な案に各クラブとも大変な好感度を持った。

【第34回HHキャンプに参加して】

條 イサヨ

今年のHHキャンプは香港とマカオYMCAの共催でした。

キャンプの事前研修のときに、今年のキャンパーは日常的に手話を使っていない人が数名いることが分っていました。また六甲山でアメリカ手話の学習のときに覚えようと思っても覚えられないと涙ぐんでいる人がいましたので、交流に少し不安を感じていました。手話の学習も一度だけしかできませんでしたので。

7月31日の朝、関西空港に全員元気に集合、田尻さんの見送りを受け、一路香港へ。

香港の空港で現地にいるYMCAの片山さんの出迎えを受けました。片山さんにはキャンプの間中、英語の通訳をはじめ大変お世話になり、本当に助かりました。

香港の空港から台北のグループと同じバスでウカイシャキャンプ場へ。次々と以前にキャンプに参加したことのある人達と再会し、気分はキャンプモードに入りました。宿舎は日本の女子全員が一つのキャビンだったので、いろいろと便利でした。踊りの練習もロビーでできたし、連絡が簡単で助かりました。

夜、歓迎式があり、キャンパー紹介、主催者への記念品贈呈がありました。ここで大阪ワイズの香港Yへの寄付金を脇本さんから渡しました。その後で九龍ワイズの女性陳麗儀さんともう一人の2人が挨拶に来られました。

ウエルカムディナーを終えてアイスブレイキングゲームを楽しみました。これには松野さんも参加し、各国のキャンパーがふれ合うにはとても良かったと思います。ただ、この後のグループワークは「メイク・サム・ノイズ(MNS)」のテーマでクラフトをするために話し合うという難しいものでした。まだ十分交流ができていない段階では、初参加のキャンパー達はテーマを理解し、考えを述べ、まとめることは難しそうで

した。例年だと混合グループでは自己紹介し、簡単な自分の国の手話を説明し合った後、グループの旗作りなどをしていたのですが・・・。

8月1日の午前中は中華香港大学の学生と教授などによる基調講演、次いで参加国から現状発表等がありました。日本の参加者は六甲山での話し合いを基に代表者が何度も集まって準備したものを発表しました。日本の他に台湾、ペナンから発表がありました。その後「メイク・サム・ノイズまたはパリアフリーな夢」の課題制作をしました。もう一つ予定されていた基調講演についての意見交換は時間の関係で中止になりました。私個人としてはテーマにそった課題制作よりも、せっかく参加国からのテーマに関連した発表があったのだから、基調講演と各国の発表について情報交換と意見交換をしてほしかったです。

昼食後民族衣装に着がえ、上はオープンの2階建バスで開会式会場へ。途中で手話うちわ配り。ただしお店の中で配る許可は得られなかったとかで炎天下で配りました。どこが配っているという表示もなかったの、市民にあまり受け取ってもらえませんでした。

再度2階建バスで開会式会場のショッピングモールへ。開会式の会場の周囲に机といすを配置して各国のクラフトをする場所にしたり、クラフトをするにも開会式のためにも狭く、キャンパーは半数以上が開会式の間中立ったままでした。クラフトも市民にも声をかけ、せっかく軌道にのったところで開会式のため中断、再開したときにはみんな気分がのらず、クラフトをしている人はとても少ない状態でした。せっかく各国が特色あるクラフトを準備したのだから、例年どおりキャンプ場で広さも時間もゆったりと、キャンパーの交流を中心に作ったら良かったのと思いました。宣伝には開会式の会場で手話うちわや各国のクラフトの作品や材料を配れば、横断幕があるので、どこが配っているかはっきりするし、クラフトのための机やいすを置かなければ、開会式のときにキャンパー全員が坐る場所もできる広さでした。

2日のオーシャンパーク観光などは施設等が聴覚障害者にとって良かった点、悪かった(困った)点などを点検しながら観光するというので、今までになかった良かった点です。混合グループ別行動でしたので、案内に付いたリーダーによって差が出たようでした。私のいたグループは希望でジェットコースターなどに乗りたいたい人と北極や南極の寒さを体験できる館に分かれたり、合流してイルカのショーを見たり、熱帯雨林体験をしたりし、園内で早めの夕食をとりんびりしました。オーシャンパークの最後は全員が閉園前の水とライトと花火のショーを見物しました。

3日に高速艇でマカオに移動しました。バスの中で昼食を済ませ、荷物を宿舎に置くと、町に出ました。日本にも出店している有名店のエッグタルトや豚肉をはさんだパン、パイなどマカオのスペシャルフードの食べ歩きと観光をしました。昼食から夕食を終わるまで食べ続けている感じでした。夜は混合グループごとにコタイ区のライトアップされた建物などを巡る散歩。

4日は朝食後シティオリエンテリングの説明を受けてからバスでマカオ世界遺産地域へ。混合グループごとに地図を持って課題の指定された建物や遺跡の写真を撮ったり、杏仁豆腐を食べたり、昼食をはさんで6時間ほどオリエンテリングをしました。とてもスケールの大きいオリエンテリングでした。途中所々で他のグループと一緒にになり、脇本さんと記念撮影をしたりしました。

宿舎に帰って、グループごとに1台確かに行った証拠用に持たされていたポラロイドカメラで撮ってきた写真をはったり、絵や説明を書きこんでアルバムを完成しました。各グループごとに1冊しかできないのが残念でしたが。

夜はカルチャーナイトで、今年は見ただけでした。獅子舞いとフォークダンスを見た後、キャンパーも一緒に踊りました。みんな楽しそうでした。

5日は朝から民族服を着て、バスでマカオタワーへ。閉会式の前にマカオの機会均等について調査報告があり、ゆっくり食事をしているひまがありませんでした。大急ぎで服を着換え、高速艇で香港にもどりました。

この夜の泊りはノアズアーク。想像していたよりも大きな舟形の宿舎でした。外形はノアの方舟を模していますが、中は普通のホテルの感じでした。

6日は朝の礼拝を止めて、旺角で午後に行うメイク・サム・ノイズ(MSN)の行動のためのダンスの練習を全員でしました。

朝食後尖沙咀に行き、2グループずつ伝統帆船鴨霊号にのり45分ずつ遊覧しました。乗船の順番でないグループは乗船場の近くにあるスターたちの銅像や手形などがある所等を観光しました。

その後香港中華YMCAに全員集合し、徒歩で旺角へ。旺角の通りでまずMSN行動、キャンプ宣言をし、「手話を公用語に」などと訴えました。その後混合グループごとに旺角でショッピングをした後、香港中華YMCAからバスで高いビルのスカイ100に行き、展望台から香港の夜景を楽しみました。幸運にもこの時はきれいに晴れていて、百万ドルの夜景の新名所なんだろうなと思えました。

この夜ノアズアークに帰り着いたのは22時になっていました。翌日それぞれ帰国する人達が多いので、キャンパー達は各国のクラフトを教えあったり、Tシャツにサインをしてもらったりして別れを惜しんでいました。

2日目の夜には「家に早く帰りたいと思いませんか？」と脇本さんに尋ねたKさんも、他の誰よりも積極的にサインをもらっていました。彼女が変わったきっかけは、同じグループのミャンマーから来た女子から「暗い所では目が見えにくいので、手をつないでください。」と頼まれ、手をつないだことでした。それから2人は仲よくなり、昼間も一緒に行動するようになりました。それからグループ内の他の女子とも親しくなり、キャンプ生活を楽しめるようになったようです。オリエンテーリングのグループの発表のときも「アルバムを持つだけなら自分にもできるから」と代表者が発表しやすいように、手伝いのため前に出ていきました。評価会では「初めはグループはいやだった。だんだん話したり、交流できて楽しくなった。」というのを聞いて、彼女の変化を近くで見ていた私としてはとてもうれしいできごとでした。

日本からのキャンパーで一番活躍していたのは手話も英語もできるA君で「将来は高土さんのようになりたい。」と頼もしいことを言うてくれました。その他「2年後も手話を覚え、英語も話せるようになって参加したい。」「何で英語の勉強が必要かと思っていたが、英語が大事だった。」「初めての海外、手話がわからないので、交流できるか不安だったが、1週間で表情がわかり、だんだん気持ちが通じるようになった。」「熱が出てみんなに世話をかけた。人の暖かみがうれしかった。ボランティアがすごかった。将来ボランティアになりたい。」等々7日の夜の評価会ではプラスの評価が多く出されました。日本のグループは1泊延長し、希望に合わせてグループを作り、ショッピングと観光に1日を過ごしたこともよかったのかもしれない。

私としては例年のように混合グループのゲームやスポーツがもう少しあって、料理も自分達で作る体験があれば、もっと早くうちとけて交流ができたと思います。

今年は大勢のスタッフやボランティアがかかわってくださっていました。ワイズメンズクラブの人達にも夕食を提供していただいたり、サポートしていただきました。

裏話？によると、個々の担当者が一生懸命取り組んでくださった結果、必要時間が長くなり、7時半の朝の礼拝に始まって、キャンパーは21時半か22時近くまで、リーダーやスタッフはリーダーミーティングが終わると早くも23時という休けい時間が少ないスケジュールになってしまったようでした。私の聞き違いかもしれませんが。

今後大阪が担当するときには、前回までの内容を知り、良い所は引き継ぎ、改善すべき点は改善し、キャンパーの交流の観点から全体のバランスを考える必要があると思います。

まずは来年の国内HHキャンプが成功するよう、去年の経験を踏まえて協力したいと思っています。

今後ともHHキャンプの企画・サポートをよろしくお願いします。

【メネットコーナー】

【2012国際HHキャンプ(香港・マカオ)に参加して】 脇本 真知子

聴覚障がい者(Hard of hearing)について本稿ではHHと略させていただきます。HHキャンプについては2007年の大阪YMCA125周年、大阪ワイズメンズクラブ80周年記念事業で開催された阿南でのキャンプに差し入れに行き、昨年の六甲国内キャンプでは一部参加させていただきました。六甲キャンプでは「来年は国際キャンプがあるから参加してね。」と子供たちをお誘いしていたので、開会式くらいは参加しなければ約束を果たすことができないと思っていましたが、家族の応援もあり全日程参加できる予定がたちました。参加させて呉れた香港YMCA、マカオYMCAや大阪YMCAのご理解と家族の応援があつてのことで、ありがとうございます。

六甲での子供たちとの約束で個人資格で参加するつもりでおりましたが、大阪ワイズからの代表参加のよう形になり、私で務まるのかどうか少々気の重い出発となりました。

このキャンプのために大阪YMCAでは三回の準備活動があり、そのうち一回は六甲での一泊研修でした。私にとっては初めての国際HHキャンプですから、不安もあり様子も分からないので私はすべて準備会に参加させていただきました。YMCAは青少年教育に対する理念がしっかりしており、キャンププログラム一つみても素晴らしい内容で、いつも感心いたします。今回も松野団長以下、理念通りのお働きがあり私も参加させて頂いて大変有意義でした。報告ということですが、内容が多くてとても書ききれません。箇条書きで簡単にご報告申し上げます。

(初日) 7月31日関空8時集合。遠方からの参加者は前日から関空近辺のホテルに泊まりました。出国チェックや入国審査など若い人達には初めての人が多く、団長の的確なご指示をいただき無事に行動できました。その折り高橋、伊田さんの手話通訳によって子供たちも安心して行動されていました。

およそ3時間のフライトで香港に到着し、入国審査をすませたあとバスで飛行場からウーカイシャのキャンプ場へ直行しました。

香港は非常に蒸し暑く室内やバスはクーラーが良く効いていました。

Welcome Ceremonyでは大阪クラブより預かった500米ドルを開会式の壇上でお渡ししました。案内はありましたが、会長のお手紙は時間の関係で読み上げられませんでした。向こうでは立派な大きな小切手を作って用意くださっており、それと現金を会長の手紙とともにお渡しいたしました。

参加者は、香港、マカオ、台北、ペナン、サバ州、ミャンマー、コリア、大阪など多くの国、都市の子供たちが参加してくれており、ボランティアを入ると200人近くです。

歓迎式のすぐ後、参加者全員に対して「バリアフリーの夢」という主題で副題は「Make some noise」というテーマが与えられました。具体的にはHHということを知らせる方法はあるか? HHにして何か社会に向けて発信したいものがあるだろうか? あなた自身是非ともこれだけは言っておきたいというものがあるだろうか? という内容です。各国の参加者を、国別ではなくシャッフルして8グループにわかれ検討することになりました。また表現のための作品づくりもしました。翌日作業内容を発表する段取りです。

2日目(8月1日)基調講演として「第3次教育の機会」、「障害者の権利と歴史」のお話がありました。講演後、参加国各国のHHに対する社会サービス(たとえば街中のHHにたいする交通機関の掲示とか税法など)についての発表がありました。そのなかで大阪からは3人のキャンパーが六甲1泊研修の際に準備した日本の現状をスライドや寸劇(地震や交通機関の停車事故時のHHに対する公共の対応など)で報告しました。また昨日の宿題テーマを発表しました。午後は民族衣装に着替えて、ショッピングモールに移動し、そこでオープニングセレモニーがまたあり、多くのスポンサーの挨拶がありました。Culture carnivalで私たちは河内音頭を踊りクラフト交流では折り紙を作りました。各国の参加者もそれぞれのお国柄を発表し、

皆大きな盛り上がりを見せました。

3日目（8月2日）ピクトリアパークやオーシャンパークを観光し、そのとき HHにとって、良いところ、悪いところ パリアーフリーの観点からの改善点などを検証する目的で探索しました。私はこの時、転んでしまい膝を打ち階段の登り降りに不自由を来してしまいました。キャンパーたちが心配してくれて、荷物を持ってくれるやら皆に助けてもらいました。皆の迷惑にならないように心がけていましたが、こんなことになって申し訳なかったです。

4日目（8月3日マカオへ出発 8：30）12時半にマカオ到着後昼食、ボランティアがマカオの市街地を見学に連れて行って呉れました。夕食はマカオ独特の美味しいポルトガル料理を頂き、全員良い雰囲気と料理を堪能し、皆大喜びでした。キャンパー達は母国出国以来、香港入国、再び香港出国、マカオ入国手続き、通関手続きが連日のように連続していて、ストレスが大きかったですが、この夕べは慣れてきて、気持ちがほっとしたのも一因で、大きな連帯と歓喜と興奮の渦が湧き起こったような感じでした。

5日目（8月4日）マカオ市内をグループに分かれて市内探索。夜はマカオの主催者がカルチャナイトで、ポルトガルの伝統舞踊や中国の獅子舞など披露してくれました。

6日目（8月5日）朝、マカオタワーに上り、その後皆民族衣装にて閉会式に臨みましたが、英語も解らないし、手話も解らないし、HHの人よりも情報が少なく私ひとり寂しい思いをしても当然だと思うのに、なにか皆と一緒に、状況が解らなくてもどこか仲間としての安心感があり貴重な体験をしました。夕刻香港に戻りました。

7日目（8月6日）香港遊覧船で海からの香港の風景を楽しみました。香港中華YMCAスタッフのラリーさんが私に側について、いろいろと説明や案内をしてくれました。英語がもっと出来ればと思いました。田尻さんからの前もってのラリーさんへ私の参加を連絡して下っていたのが有り難かったです。午後、モンコック歩行者エリアで「キャンプ宣言」ということで、街頭パフォーマンスをしました。夜はスカイ100を観光。その後、ホテルでキャンパー達は最終日の夜ということで、メール交換やTシャツに寄せ書きをしたりして、深夜まで別れを惜しんで交流が続きました。

8日目（8月7日）朝、各国の参加者は解散し、私たちのメンバーのうち高校生はYMCAの片山さんと池田さんの案内でショッピングに行きました。大人はそれぞれに最後の香港を楽しみました。夜、日本からの参加者だけで評価会を持ち、是非またこのような国際HHキャンプを続けてほしいという声が続きました。

まとめ

「このプログラムを無事に遂行された香港YMCA、マカオYMCAの関係者に感謝申し上げます。

出発から帰国まで、無事に私たちをご指導下さった大阪YMCA松野時彦団長、池田聡美、香港YMCA出向中の片山聡子各先生に感謝申し上げます。

朝から晩まで休憩時間もなく手話通訳をしてくださった條イサヨ、伊田洋子、高橋喜代子各先生に感謝申し上げます。

最後になりましたが、社会人としてご活躍中でご多忙にもかかわらず、プログラムリーダーとしてフルに参加して下さった高土雄輔さん、西村智恵さんの後輩たちへの熱き思いと応援に心から感謝と拍手をおくりたいと思います。また、この機会を与えて下さった大阪ワイズメンズクラブのみなさまに感謝申し上げます。

大阪ワイズメンズクラブの社会奉仕事業である青少年HH教育支援運動に永年参加させて頂いて私自身成長させて頂いたと思います。「良く知ることが理解を深め、無関心ということが誤解を生じる」ことに気がつきました。ありがとうございました。

【第34回YMC A聴覚障がい青少年国際キャンプに参加して】

高土 雄輔 (HHキャンプOB)

HHキャンプも今年で、34回目を迎えました。私も34回目を…。そんなことはありません。(笑) 私は、最初の参加から8回目になります。今回のHHキャンプは、大変充実したものでした。

今年のキャンププログラムは、いつもならスポーツゲームやキャンパー同士で相談しながらグループの旗を作ったり、即興で寸劇を行ったりするのですが、今回も香港だからなのか、プログラムが変わっていました。主に観光と簡単なゲームがありました。香港は、現在発展途上にあり、バリアフリーに向けて取り組んでいました。オーシャンパークという最近出来た施設に入りました。ここはイルカのショーを見られるだけでなく、遊園地のような娯楽施設もあり、皆それぞれ思い思いの時間を過ごしていました。僕は、というところの日はかなり暑かったので、ジェットコースターなどの娯楽施設で遊ぶ余裕はなく、南極と北極で生きる動物がいる施設に入ったりと涼みたい！という同志と時間を潰しました。

残念だったのが、飲食店で店員さんやお客さんの態度がかなり悪かったので、ゆっくり食べられませんでした。香港では、日本では考えられない行動がありました。食べ物を注文して、席に座るのは日本と同じですが、くつろぐと、次に来た人がずーっと立っていて、さも『早く出て行って』と目で語っているような感じを受け、もう香港はイヤだ！と思いました。

あとで聞くとところによると、オーシャンパークに入って来た人の90%が中国人だとのことでした。中国人はお札で支払い、香港人は小銭で支払うから態度が違って当然、とのことでした。(^ ;;) これはバリアフリーについて考えるところじゃないです(笑)

日程の中間にマカオに移りました。実はマカオで開催されるのはHHキャンプ史上初です。

マカオでも、バリアフリーについて取り組んでいました。聴覚障がいをもつ我々当事者に主催側から課題を投げかけ、当事者同士でどう感じるか？という街中を練り歩きながら観光を行ったりしました。もちろん、バンジージャンプで有名なマカオタワーに入りました。

残念だったのが、カジノ施設に入れなかったことで、あとから聞いたことによると、キャンプのスタッフの判断で入るのは相応しくないとのことでした。当然といえば当然かな。

このキャンプを振りかえってみて一番よかったのは、参加した高校生たちが、初海外にも関わらず、香港のサウナのような気候と、油ばっかりの食生活に頑張っただけで来てくれたことです。最初は慣れてなかったので、体調を崩したりしていましたが、各国のキャンパーや日本のスタッフのフォローもあり、最後の最後で交流している姿を見て、すごく感動しました。人見知りする子も、そうでない子も、『また行きたい！今度は自分がボランティア(リーダー)をやりたい！』という声も聞いたので、みんな大変充実したキャンプだったのではないかと思います。僕もそう思いました。

これがHHキャンプの醍醐味なんですよ！最後まで読んでいただき、ありがとうございました。m(____)m

【サラワク雑感】

五条 孝次郎

6月末から7月初めの一週間あまり、予定通りボルネオ島サラワク州クチン市、シブ市、ルマバンジン(イバン族ロングハウス村)への旅行は総勢12名でサラワク体験を無事終えることが出来ました。参加者にはワイズメンクラブ会員ほか、新現役ネット、JICA関係者など混成団となりました。

長年イギリス人探検家が白人王となって統治をしていたサラワク州都クチン(猫の意味)にはコロニアル建築が残り歴史を感じさせます。サラワク川をはさんで北岸は緑豊かな公園都市で州議会をはじめとした官庁街、南岸は商業の中心地をなしています。西マレーシアと比べて全体的に落ち着いた雰囲気を感じられました。

先ずオランウータンの森のりハビリテーションセンターに立ち寄りしました。絶滅危惧種を目の前にして生

物多様性と環境維持の必要性を痛感するとともに、ボルネオをはじめとする南アジア、アマゾン、中央アフリカの熱帯雨林で地球全体の40%の酸素を供給していることに思いを馳せました。クチン向背地のハイランドリゾートにては熱帯ながらも自然の冷房空間で、二日間すべて菜食とゴルフやスパ&セラピーを満喫しました。快適で健康的な生活はまさにパラダイスでした。

シブにてはYMC Aの張秘書長、黄ディレクター両ご夫妻他より大歓迎を受けました。ともに中華系で地元学会、商工会の名士の方々でした。ご招待いただいた晩さん会では特産のオオテナガエビと地ビールのコラボに全員しゃぶりつきました。シブYMC Aは近郊に立派なキャンプサイトをお持ちで次回にはぜひ訪れてほしいとのこと。今後も機会があれば何らかの交流が継続されればと思いました。

その後、ルマバンジン村にまいりました。ロングハウスへの案内はSCS (Society of Christian Service, Shibu, SARAWAK) のアジャ氏のご案内があり、行きは数艘のボート、帰りは4WDへ乗り継ぎと、並みのツアーでは味わえないスリル満点のジャングル紀行となりました。SCSは創立後30年の原住民系のNPO団体で底辺の人々の生活、人権、保険衛生から農業改善プログラムにいたる幅広い活動を行っています。参加者よりの志としてSCSをとうして村の衛生設備へ寄付をさせていただきました。

二日間の村ホームステイはイバンの人達と共同生活で、水浴びと洗濯は川にて、また、男は河原で鶏を絞めて料理をし、その間、女は木の葉の編み物とすべて文明を離れた生活を体験しました。圧巻はプログラムになかったジャングル奥地への探検、日本人12名とイバン族6名、番犬1名、計19名にて踏み入りました。正直言って、キツカッタですが、帰国後は忘れえない思い出になりました。

帰国後に格安英語留学の体験に数名の若人より申し込みがありました。

「サラワクにアジアビレッジを開こう」への第一歩になればと思っています。

【YMC Aニュース】

第233回大阪YMC A早天祈祷会 日 時：9月20日(金) 7:30~8:30

場 所：大阪YMC A会館10Fチャペル

証 し： 恵美奈 博光さん(大阪サウスワイズメンズクラブ) 参加費：300円(軽食付き)

【今後の行事予定】

今後の行事は、次のとおりです。積極的な参加をお願いします。

1. 六甲部会・・・9月8日(土)
2. 京都部会・・・9月9日(日)
3. 中西部会・・・9月15日(土) 14:00~17:00(受付13:30) ホテルグランヴィア大阪
中西部合同メネット・アワー・・・9月15日(土) 12:30~ ホテルグランヴィア大阪20F鶴寿
4. 阪和部会・・・9月22日(土・祝)
5. 西中国部会・・・9月29日(土)
6. 瀬戸山陰部会・・・10月8日(月・祝)
7. 九州部会・・・10月20日(土)

参加希望者は、牟 大盛書記宛(090-8195-0914 fax 06-7397-3337)ご連絡ください。

【CSより】

献品は下記住所をお願いします。

「釜ヶ崎いこいの家」 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 : (06) 6631-2169

【編集後記】

酷暑の中、HHキャンプに参加された條メンと脇本メネット、さらに参加者の方々、本当にお疲れ様でした。詳細で臨場感あふれる報告記事を執筆いただき、感謝です。(編集委員：松原伸幸)